

上久保の一里塚

土でできた里程標

日本の古い街道の距離は、石造の里程標ではなく、このように大きな土塁という形で表示されていました。一里塚は、一里という、4km 弱に相当する日本の昔の測定単位ごとに設置されていました。高さ 3m で、その底部の面積が 9m² の一里塚の頂上にはマツまたはエノキのいずれかが 1 本だけ植えられており、この木は、疲れた旅人に日陰をもたらすと同時に、塚が崩壊してなくなることを防ぐ役目も果たしていました。

上久保の一里塚は、江戸から 78 番目の一里塚で、江戸から約 306km のところにあります。南木曾にはこのような一里塚が十二兼、金知屋、ここ上久保と下り谷に計 4 基ありましたが、元の形をとどめているのはこの一里塚だけです。